

「牛のかたきうち」

(対象：小学校高学年～中学校)

平成29年9月1日付け

1 授業のねらい

<知的理解に関して>

分断支配の一環として、「むらのもん」が処刑などの人々がいやがる「役目」を押しつけられていたことを知り、その役目を果たすほど人々から嫌われていくことの差別構造を理解する。

<人権感覚に関して>

「むごか」と言われた際の「むらのもん」の心情について、ツキ役をしたくてしているわけではないことに着目して捉え、被差別の立場に置かれた人々の悔しさや苦しさに迫ることができる。

2 教材について（教師が知っておくべきこと）

本教材は、藤瀬家文書「御用留帳」安川巖編「加瀬家記録」を松崎武俊が作品化したものであるこの学習にあたっては時代背景を明らかにしておく必要があるので社会科歴史で江戸時代を扱った後に学習するのが適当であろう。分裂支配の一環として、「被差別身分の人たち」が、捕り手や罪人の護送と処刑など人々が極度に忌み嫌う行刑作業を被差別身分の身分的「役目」として定め、強いて反復従事させた。その結果、「被差別身分の人たち」が、その役目を忠実に実行すればするほど人々から忌み嫌われ分裂・差別されていったのである。

幕藩社会における主従関係は、その封建的支配体系を保全するための至上命令であった。主殺しは重犯扱いとなっていた。こうした幕藩的社会的秩序を維持するために、飼い牛に対しても主殺しの罰条を適用し、それをさらしものにするにより、主従関係の徹底を領民に示したものである。加えて、死刑のツキ役に「いつものようにむらのもんが命令された」のである。本文では、主人殺しの牛を処刑する時、最初は周りの見物人も弥次馬的な正義感から「牛を殺せ」と絶叫していた。しかし、死刑という凄惨な面前の光景に、いつしか牛への憎しみが、次第に牛を突く「ツキ人」に転化していく。そして、死刑終了後の見物人の心に残ったのは、「被差別身分の人」はむごいことをするという部落賤視だけである。殺されたじいさんの味方のようにふるまう役人といっしょに「牛を殺せ」と絶叫する見物人が、最後に「むらのもんなむごか」とつぶやく。見物人自身も身分制度化に組み込まれているのであるが、それを見ることができないくらいに巧妙な分裂支配ができあがっている。

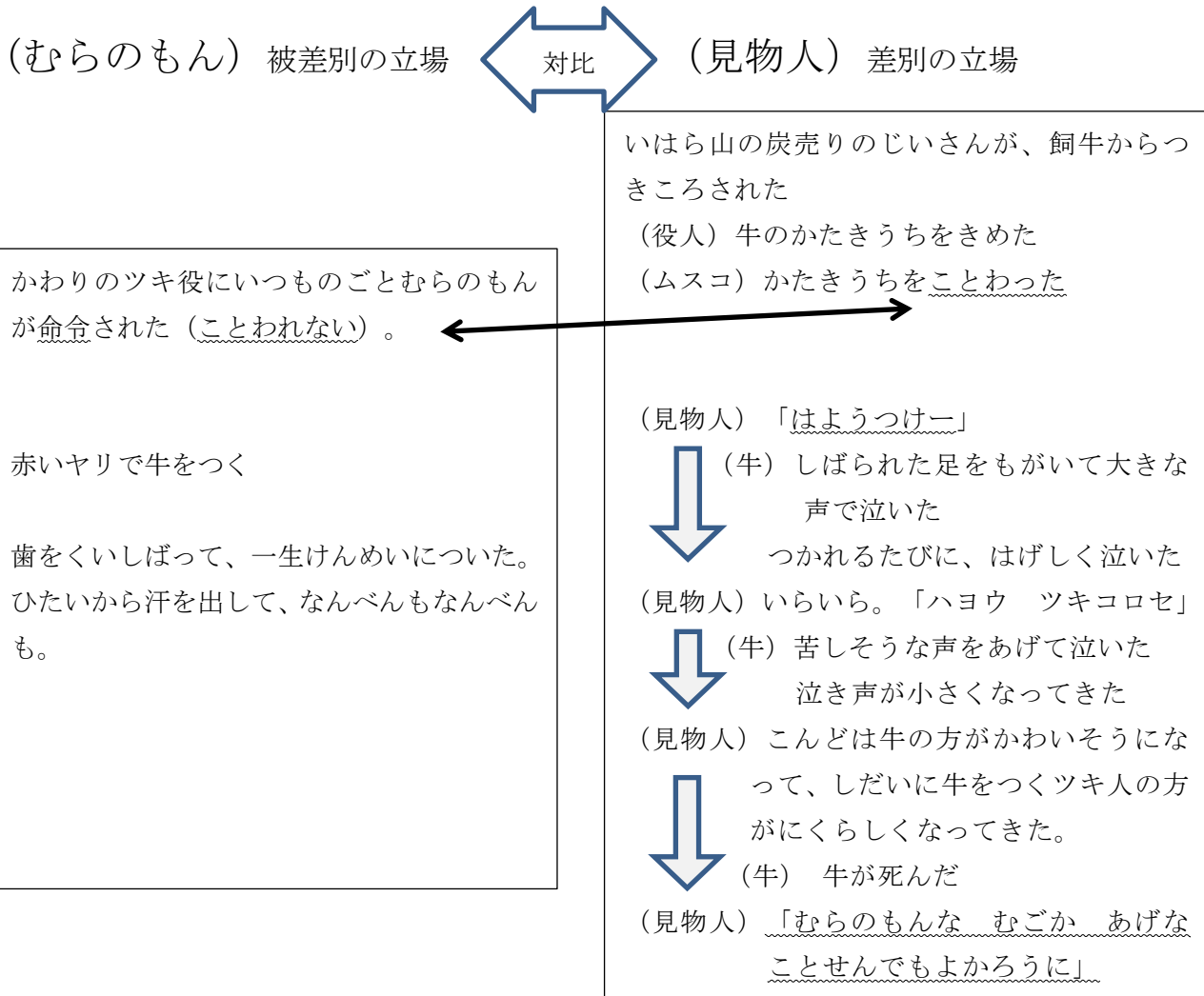
授業では、時代背景をきちんとつかませることはもちろんであるが、ツキ人の「やりたくてやっているわけではない」ことをきちんと押さえておく必要がある。その上で、ツキ人は、見物人のあまりにも身勝手な変容ぶりをどう思ったかや、「むらのもんなむごか」と言われてどんな気持ちだったかを考えさせたい。ツキ役の人々の心情に迫ることで、このような分裂支配や差別の構図を捉えさせ、被差別の立場に置かれた人々の悔しさ、苦しさを実感させるようにしたい。

3 教材のあらすじ

1835年<ホントの話>

むらのもん (ツキ役) → 身分が低いとされていた人

炭売りのじいさん・ムスコ・庄屋さん・見物人 → 百姓・町人 奉行所の役人・サムライ → 武士



4 学習展開

授業時数については、2時間程度の扱いを想定

学習活動	指導及び支援の留意点
1 教材文のあらすじをつかむ	○別表のように、ツキ役の「むらのもん」と見物人のとの言動を対比させ、差別と被差別の構造をとらえやすいようにする。
2 見物人と「むらのもん」の心情を考える	○見物人の心情については、見物人が「はようつけー」から「むらのもんなむごか」に変わったのはなぜだろう? と問い、牛がだんだんかわいそうに感じてきたことと、それをしているむらももんがだんだん残酷な人間に見えてきたことを確認する。

<p>3 「むらのもんなむごか」と言われた際の「むらのもん」の心情に迫る。</p>	<p>○ツキ役の心情については、<u>どんな気持ちでツキ役はついていたんだろう？</u> と問い、「歯を食いしばって、一生けんめいに」や「ひたいから汗を出してなんべんもなんべんも」をキーワードに考えさせる。また、むらのもんは命令されてことわれないことから、牛のツキ役をやりたくてやったわけではないことを確認する。</p> <p>○牛をついている時の見物人とツキ役の心情が明らかになったら、牛が死んだ時に見物人から「むらのもんな むごか」と言われた際のツキ役の心情に目を向けさせて課題を位置づける。</p>
-------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

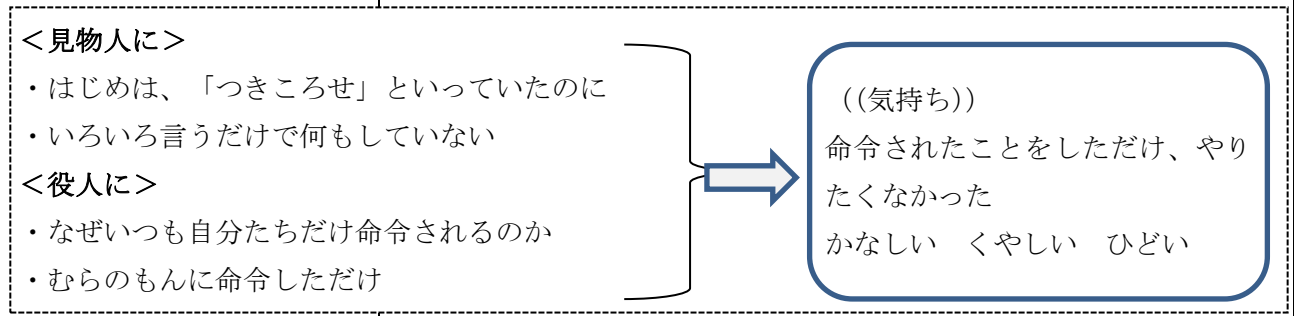
(はじめは「はようつけー」と言っていたのに)
課題：見物人から「むらのもんな むごか」と言われて、ツキ役の人はどうな気持ちだっただろう？

○「3つの視点」を活用し、考えを深めさせる。

【自己選択・決定①】
 自分の考えを持てるよう、ワークシート等を有効に活用し記述させる。

【自己存在感】
 個→グループ→全体 等の考えを出し合う、示す場を工夫する。

【共感的関係】
 出た考えをもとに話し合う。考えを深める工夫として、課題に対する考えを以下の視点で分類する。



<p>4 まとめをする。</p>	<p>○出された意見をもとにまとめにつなげる。</p> <p>【自己選択・決定②】 自分の考えと友達のを比べて考えさせる。考えの変容や深まりを記</p>
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

まとめ (例)：
 やりたくてやっているわけではないのに、勝手なことをいわれて「くやしい」気持ち
 (「くやしい」などの心情を表す言葉は、児童生徒からでてきたものをもとにする)

これまでの学習に応じて補足説明を行い、時代背景と身分差別の構図をとらえさせる。

- ・むらのもんはつらい立場におかれていて人が嫌う仕事をさせられていたことと、その役目をすればするほどきられていくことを確認する。
- ・役人が見物人とむらのもんを対立させることで支配していたことを説明する。